

「グローバルカレッジ」への挑戦

ハワイ東海インターナショナルカレッジ学長 吉川 直人

Naoto Yoshikawa

ハワイ東海インターナショナルカレッジの設立

学校法人東海大学は1990年にハワイに国際的な研究・教育・会議などに施設を提供し、米国、アジア、太平洋諸国との交流を推進する「東海大学パシフィックセンター(TUPC)」を設置した。また、1992年にはパシフィックセンター内にリベラルアーツ教育を通してグローバル市民の育成を目指す短期大学「ハワイ東海インターナショナルカレッジ(以下HTIC)」を設立した。これらの機関の設立は、取りも直さず、東海大学が創立以来行ってきた国際戦略の一環である。

学校法人東海大学の創立者松前重義が唱っていた「我々の使命は大学建設だけに終わるのではなく、それを通じて平和国家の、世界平和の建設を実現させなければならない」という哲学が学園の国際戦略の指針となっている。このハワイの教育機関が設立される以前に、既に学園は様々な国際活動を行ってきた。1970年には学術シンポジウムや文化交流活動を行うためのヨーロッパ学術センターをデンマークに設置し、また、JICAの支援を受け、タイのモンクット王ラカバン工科大学(KMITL)への教育支援活動を行い、10回にもおよびアジア・環太平洋学長・研究所所長会議、アジア農業シンポジウム等を開催するなどして、国際的な大学の協力体制の整備に貢献してきた。これらの活動は創立者の「教育による世界平和の建設」という哲学を具体化し、実現してきたものである¹。HTICの設立もこの哲学の具体化そのものである。HTICの定款の第1条第1項にはカレッジの目的として以下のように書かれている。



HTIC前に集う学生達

「ハワイ東海インターナショナルカレッジは東海大学学園の理想を実現するための独立教育機関である。多様な文化のコミュニティーの中で中等教育後のレベルの教育とトレーニングを学生に提供する機関である。ハワイ東海インターナショナルカレッジは学生がハワイ、および、グローバルなコミュニティーの一員として、世界平和と国際理解に貢献することを促進している。」²

HTICは日本の教育機関が持っている米国の短期大学ということだけでも、とてもユニークであるが、米国の短大の中でもこのような目的のために設置され、その目的を実現するための大学ということでも類を見ない短大である。HTICでは、この目的をめざした教育をするため、さまざまな国際理解を促進するカリキュラムが組まれている。

米国の短期大学としてのハワイ東海インターナショナルカレッジ

1992年に設立したハワイ東海インターナショナルカレッジは1994年から米国西部地区学校・大学協会の大学基準認定委員会（Western Association of Schools and Colleges: WASC、Accrediting Commission for Community and Junior Colleges: ACCJC）から、アクレディテーションを受けている。米国の場合、連邦政府や州政府による大学設置基準認可というものはなく、「college」「university」という名前を付けた組織を商標登録して設立させることは安易にできる。ハワイ州だけでも、「college」とか「university」という名前がついた組織は160以上存在する。このような状況において、「教育の質の保証」をするものが、日本語で一般的に「基準認定」と訳されているアクレディテーション（accreditation）である。

「アクレディテーション」とは全米を6つの地域に分け、6つの学校・大学協会がそれぞれの地域の大学・短大の教育の質、および教育機関としての運営方法（特に、理事の役割と責任）などについて、協会が決めた基準を満たしているかどうかを6年ごとに審査するシステムである。この6つの地域別の協会は連邦政府が設置したものではなく、アクレディテーションを受けた大学が自主的に作っている同業者組合である。ハワイ州の場合はカリフォルニア州と一緒に一つの地域を作っており、先に述べた米国西部地区学校・大学協会（WASC）がアクレディテーションの基準認定をしている。現在、ハワイ州において、WASCからこの基準認定を受けている大学はHTICを含めて15校しかない³。

HTICの卒業生が米国、および、カナダの4年制の大学へ編入学した際には、殆どの単位をその編入学した大学の単位として振り替えてもらえるのも、このアクレディテーションを受けているからである。また、HTICが多くの米国の4年制の大学と編入学協定を結んでいるのも、同様の理由からである。

ハワイ東海インターナショナルカレッジのプログラム

現在のハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）には3つのプログラムがある。これまでに述べてきたリベラルアーツを教育する本科（Liberal Arts Program）に加え、英語が母国語でない学生が短期大学課程に進学するための英語と学習スキルを学ぶ予科（College Preparatory Program）と東海大学学園、および東海大学の協定校の生徒・学生が英語・アメリカ文化等を短・中期間で学ぶプログラム（International Program）がある。これらのどのプログラムも定款の目的に書かれている学園の理想を実現できるようなカリキュラムが組まれている。

・本科（Liberal Arts Program）

このプログラムは米国の短期大学課程であり、必修科目を含む60単位を取得する

ことで短期大学士 (Associate in Arts) が与えられる。後述する予科プログラムに対し、このプログラムを本科プログラムと呼んでいる。開講しているのはリベラルアーツの授業である。HTICでは、学校・大学協会の大学基準認定委員会が定めている米国の大学の一つ条件である授業を通して育成する能力・スキル (SLO: Student Learning Outcomes) を 11 設定している⁴。このSLOも、HTICの目的である国際理解ができ、将来、世界平和に貢献できるようになるための能力・スキルを設定してある。また、更に、学生の国際理解を促進するために平和研究プログラム (Peace Studies Program) とディスカバーイーストアジアプログラム (Discover East Asia) を設けている。平和研究プログラムとは平和研究として指定した科目群の中から、12 単位分のクラスを履修し、平和研究のリサーチペーパーを書くことにより、卒業時に平和研究課程の修了証書 (Peace Studies Certificate) を受けるプログラムである。HTICにおける平和研究とは幅広い意味のもので、安全保障、国際関係、国際開発、環境保全などの分野をも含めた研究を指している。

ディスカバーイーストアジアプログラムは HTIC において、日本、韓国、中国の歴史、文化とそれぞれの国の語学の基礎を学んだ後に、日本は東海大学、韓国は漢陽大学、中国は深圳大学にそれぞれの国の言語を学びに 1 学期間 (4 カ月間) 留学するプログラムである。この留学期間終了後に単位を認定するのだが、参加学生の中には自主的に留学期間を延長して、1 年間留学する学生も少なくない。

・予科 : (College Preparatory Program)

このプログラムは英語を母国語としない学生のための英語を学ぶクラスではあるが、一般的な ESL (English as a second language) のクラスではない。英語のプログラム名が示すように、米国の大学の英語の教科書が理解できる能力、自分の考えを英語で論理的に述べられるスキル、研究論文を英語で書ける能力、プレゼンテーションを英語で行うスキルといった米国の大学で必要とする能力とスキルを学べるプログラムである。

予科は各個人の英語能力にあったレベルで学べるように 5 段階に分かれている。レベル 1 は英語の基礎を学ぶようになっているが、レベル 2 から 5 までは世界史基礎、社会学基礎、異文化コミュニケーション、アメリカ研究基礎を学びながら英語を学ぶ、いわゆるコンテンツベース (content based) の授業である。これらのコンテンツは全て、国際理解に役立つものである。最後のレベル 5 において、アメリカ研究をコンテンツにしている理由は、英語が上達したところで、米国の歴史、文化、政治制度等を日本人を含む英語を母国語としない学生が学ぶことで、米国という国を理解してもらうことを目的としている。また、この目的に加え、米国の大学生がすでに高校で学んできている知識をこのレベルで学び、米国の大学での人文系・社会科学系のクラスを履修する際に支障のないように配慮している。

本科のクラスも、予科のクラスも、少人数制を徹底しており、教員の指導が一人一人の学生に行き届くようにしている。また、クラスを少人数制にすることで、高校までは講義形式で学んできた日本やアジアからの学生が、恥ずかしがらずに積極的にク

ラスに参加し、発言できる効果も狙っている。

本科と予科の学生は授業の予習、復習、さらには与えられた課題で生じた疑問などについてをラーニングセンター（図書館）で、チューターに質問できるシステムを設けている。チューターは、ハワイ大学の学生・大学院生や地元の高等学校の教員などを採用しており、主として夜間に行っている。勿論、HTICの各教員はオフィスアワーを設けているが、学生は指定された時間に質問に行けなかったり、実際に課題に取り組む始めてから、疑問を見つける学生がいたりするので、このシステムは学生に人気がある。

本科も、予科も4学期制(quarter system)である。HTICは米国の大学であるため、学年暦は10月から始まる秋学期を新学期にしているが、1月(冬学期)、4月(春学期)、7月(夏学期)のどこからでも入学できる。この4学期制は、日本からの学生にとって、高等学校を3月に卒業して、数カ月を無駄にすることなく、4月からHTICに入学することができるメリットがある。

・インターナショナルプログラム (International Program)

インターナショナルプログラムとは、東海大学、および同附属中・高等学校や東海大学の海外の協定校などの生徒・学生が短・中期間、HTICに滞在し、英語、アメリカ文化、ハワイ文化、マリンスポーツ、医学や看護のテクニカルイングリッシュなどを学ぶプログラムである。期間は1週間から、3カ月まで様々である。参加者数も研修によって異なり、20人くらいから、最大150人位のものまでである。参加者の人数が多くても、本科、予科のクラスと同様に1クラスは少人数制を徹底しており、同じ研修でも、いくつかのクラスに分けている。

基本的には研修ごとにその目的に合わせ、研修の内容・スケジュールを設定するが、どの研修においても、プログラムの参加者に国際理解を促進するカリキュラムが組み込まれている。例えば、ハワイにあるという立地条件を生かし、パールハーバーを見学する前に、真珠湾攻撃が始まる前の日本・米国・中国関係史の講義を聴講させたり、砂糖きび畑で働くために様々な国から移民してきた人たちの民家が残るプランテーションビレッジを訪問し、ハワイの近代史と現在のハワイの社会構造を考えるなどという特別な授業をどの研修にも設けている。しかし、研修により、参加者が中学生から、医学部生まで様々なので、このような授業の内容は参加者のレベルに合わせて、カスタマイズしている。



卒業式

課題とこれからの指針

これまでに述べてきたようにハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）は、学校法人東海大学の国際戦略を具体化するための一部の教育機関として運営されてきた。また、同時に米国の基準認定を受けた「米国の短期大学」として運営が行われている。HTICは日本と米国の教育機関である両面をもっている。この特異性がHTICの良さであるが、その運営に当たっては、この特異性のために、複雑になっている。

法律上、また、基準認定に関してだけを考えれば、米国の教育機関としての基準を満たす運営を行えばよいのである。しかし、それでは、学校法人東海大学が多大なコストを投資し、米国に大学を設立した意味がない。確かに、日本の学校法人の基準と米国のアクレディテーションの基準では様々な違いがある。この違いを克服するには、日米両方の基準を満たせる、より一層高い基準を自主的に設定し、その基準を満たしていかななくてはならない。

また、実際の経営・運営上における課題であるが、HTICの教職員を主軸とする様々な運営の当事者たちの間で、日本型経営を期待する人、また、アメリカ型経営を期待する人、さらには融合型の経営を期待する人と様々であり、この当事者たちの期待にどのように応えていくかということである。これらの人たちはそれぞれ、自分の職場であるHTICのさらなる安定した発展を望んでいる。しかし、日本型経営とアメリカ型経営を融合させることは、そのどちらをも妥協させることであり、どちらか一方を望んでいる大半の人たちの期待には添えないような経営になってしまう。

このような状況の中で、これからどこを目指してよいのかを考えると、基準と同様に新しい経営体系を模索していかななくてはならないのであろう。基準についていえば、自主的に設定した高い基準を「グローバルスタンダード」というのであれば、経営・運営に関しては「グローバル型経営」という新しい体系を作り上げなくてはならない。これはレトリックであるのかもしれないが、「二つを融合させる」ということではなく「新しいものを作り上げる」という発想に基づくことが、全ての当事者の期待に添えることであるように思える。

では、実際の「グローバルスタンダード」と「グローバル型経営」を作っていくためには何が必要なのであろうか。まず、初めに必要なことは、HTICは学校法人東海大学の国際戦略の指針である「教育による世界平和の建設」に貢献する教育機関であるということを実行者全員が再確認し、どのような教育を行うことが「教育による世界平和の建設」に繋がるかを考えることである。そして、実際に「国際理解」ができ、「世界平和」づくりに貢献できる学生を教育できる大学の基準を設定することである。このような基準はかなり高いものになり、日米両国の大学の基準をも包括的に満たせる「グローバルスタンダード」になると思われる。

この基準を満たすためにはどのような経営・運営をする必要があるのかを考え、それを実行していくことが、すなわち「グローバル型経営」を実践していくことになるのであろう。勿論、このように、自分たちに必要以上に高い基準を設定することと、新しいものを作り上げることは容易なことではない。しかし、この2つの課題を克服することが日米間にまたがるHTICを発展させることであり、同時に「教育による世界平和の建設」への貢献に繋がることであると確信している。

HTICは規模からみると予科・本科の学生が常時150人程度で、インターナショナルプログラムに参加している生徒・学生の数が、年間の延べ人数にして5,000人程度である。非常に小さい大学であるが、HTICのこれからの挑戦は、日本と米国の大学という範疇を超えたところに目標を設定しなければならず、とても大きい挑戦である。HTICの教育基準から運営まで全てをグローバル化することにより、「教育による世界平和の建設」に資することができよう。また、日本と米国、両国の教育のグローバル化に貢献できると信じている。

¹ これまでの学校法人東海大学の詳しい国際戦略については2006年1月『留学交流』山田清志「case study 東海大学におけるグローバル化への取組」pp.20-23を参照のこと。

² 定款の本文は以下の通り。引用文は著者の翻訳によるもの。

「Hawaii Tokai International College is an independent educational institution, whose basic purpose is to espouse the ideals of the Tokai University Educational System. It provides students with education and training at the post secondary level in a supportive, multicultural learning community. Hawaii Tokai International College encourages students, as members of their local and global communities, to engage in activities that will promote world peace and international understanding.」

³ ハワイ州において、WASC(Western Association of Schools and Colleges)のアクレディテーションを持っているのは以下の15校。そのうち、10校はハワイ州立大学。

4年制大学 (Accrediting Commission for Senior Colleges and University, WASC)

1. Brigham Young University-Hawaii, 2. Chaminade University of Honolulu, 3. Hawaii Pacific University, 4. University of Hawaii at Manoa, 5. University of Hawaii-West Oahu, 6. University of Hawaii at Hilo, 7. University of Hawaii Maui College.

2年制大学 (Accrediting Commission for Community and Junior Colleges, WASC)

8. Hawaii Tokai International College, 9. Heald College, Honolulu, 10. Hawaii Community College, 11. Honolulu Community College, 12. Kapiolani Community College, 13. Kauai Community College, 14. Leeward Community College, 15. Windward Community College.

⁴ HTICが設定している Student Learning Outcomes (SLO)は以下の11である。

1. Effective Written Communication, 2. Critical Thinking, 3. Effective Oral Communication, 4. Global Citizenship, 5. Second-Language Proficiency, 6. Cross-Cultural Awareness, 7. Computer Literacy, 8. Effective/Active Reading Skills, 9. Cooperative Learning, 10. Creativity, and 11. Core/Body of Knowledge.